

平成二十四年度 奈良女子大学文学部 公開講座

# 和歌と想像力

古来、和歌は、実際の体験に基づいて詠まれることもあれば、虚構に遊んで想像で詠まれることもありました。本講座では、和歌の背後にどのような想像世界がひろがっていたのか、また和歌が時代とともに変貌していく過程で想像力がどう関与していたのかということを、様々な例を挙げてわかりやすく話をいたします。上代をはじめとして中古・中世にわたる和歌の豊かな流れに浸ってみてください。

## 仙女のおもかげ―萬葉集と遊仙窟―

奥村和美（奈良女子大学文学部准教授）

上代国文学研究者。京都市生まれ。平成九年、上代文学会賞受賞。『萬葉集』の大伴家持の和歌を中心とする比較文学的研究を進めている。

## 「鳴」の文学史―和歌から連歌へ―

岡崎真紀子（奈良女子大学文学部准教授）

中古・中世国文学研究者。東京都生まれ。平成二十年、著書『やまとことば表現論―源俊賴へ―』により日本古典文学学術賞受賞。平安時代から室町時代にかけての和歌・連歌を中心とする研究をしている。

主催 奈良女子大学文学部

／ 共催

佐保会（奈良女高師・奈良女同窓会）・放送大学奈良学習センター

日時 平成24年7月15日（日）14時～17時

場所 奈良女子大学 文学部 北棟N101  
（近鉄奈良駅東改札口より徒歩5分）

入場無料・定員100名（申し込み先着順）

\* 公開講座の参加申し込み・問合せは、文学部係(0742-20-3699)まで。本学ホームページにも案内を掲載中。